



# 浦島伝説

令和4年12月20日

第30号

## 決まった道はない ただ行き先があるのみだ



2006年に放送が始まったNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」というテレビ番組があります。15年以上にわたって続く長寿番組です。よく他の番組で取り上げられる、医師や弁護士、TVプロデューサー、会社の社長などの華やかな仕事だけでなく、看護師、清掃作業員、農家、漁師、介護士、教師など身近にある様々な仕事を取り上げていることが人気の一因（いちいん）となっています。

あるNHKのプロデューサーが、自分の仕事がうまくいかずに悩んでいたとき、「一流の仕事人と言われる人たちは、こんなとき一体どうしているのだろう」と思ったことで、この番組が生まれたそうです。そして番組を制作していく中で、一流と言われる人でも、

日々仕事がうまくいかずに悩んだり迷ったりしていることに気がきます。だが、一流と言われる人々は、確固たる仕事の「流儀（りゅうぎ）」をもっています。「流儀」というのは、その人の独特の仕事のやり方、仕事に取り組む姿勢、考え方、信念のようなものです。番組の中では、その「流儀」を短い言葉にまとめてくれています。印象に残っているものをいくつか紹介します。

### ◇ 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ（獣医師 齊藤 慶輔）

オオワシの調査でロシアの人が言った言葉。「それまで必死に道を探していた。正しい道があるものと思い、その道を探していた。でも決まった道なんてないんだって言われたわけですよ。目的を見失ったり、行き先を見失えば、それで終わりです。でも、それさえ見失わなければ、道は拓（ひら）けるってことなんです。あるいは道を作れるってことなんです」

### ◇ 雑草や石ころのように、強く生きていけばいい（りんご農家 木村 秋則）

母親が言った言葉。「石を見ろって。雑草見ろって。なんにもやらなくても毎年元気に育ってくる。この雑草のように生きていけばいいよと。そして石をこつ蹴りながら、路傍（ろぼう：道ばた）の石、踏まれても踏まれても踏んづけられても、石は石だよと。そして生きればいいって」

### ◇ 未来を予測する最善の方法は、自らそれを創り出すことである（ベンチャー企業経営者 秋山 咲恵）

「悩んだり迷ったりすることはものすごくエネルギーを使うのに、1ミリも前に進んでいない状態なんです。それよりは、自分は前に進むぞと決意する。そして前に進んだ以上は、責任を持って、それが正解になるよう一生懸命努力する。最初から正解を選ぼうとするのではなく、決めて選んだ道を正解にする努力を一生懸命やる。そのほうが未来につながるんです」

### ◇ 人を変えたいのなら、まず、自分から変わることだ（百貨店食品部部長 内山 晋）

内山さんがまず始めたのは、フロアの掃除だった。数人に声をかけ、毎朝、開店前の食品売り場、雑巾（ぞうきん）で床を磨き始めた。しばらくすると、思わぬことが起き始めた。一人また一人と、開店前に床掃除をする人が現れたのだ。強制はしていない。それなのに、毎朝の床掃除の輪は、着実に広がった。「自分が変わらなければ、人は変わらない。一人ひとりが変わらなければ、組織は変わらない。自分が変わること」

### ◇ 一人では何もできぬ。しかし、まず一人がはじめなければならぬ（作業療法士 藤原 茂）

「かつては、自分が見本となって動けば、誰かが動いてくれる。そういう意味に思っていたのですが、最近では、自己満足でいいんだと思うようになりました。自分のためにやる。それでいいんだと。それで十分なのですよ」。人がその後ろをついてくることを期待して始めるのではない。自分が始めたいから、始める。人のためになどという偉そうな見（りょうけん）ではなく、すべては自分のためなのだ。

（「人生と仕事を変えた57の言葉」NHK「プロフェッショナル」制作班）